

4月17日(日)



鯛

め

し

今の時期しか味わえない桜鯛

1パック

780(税込)円



西田鮮魚店

☎72-5246

専用番号 ☎090-7125-5489 〈御用聞き便 (旧庄原市内はご自宅に配達)〉

先週は、さくらフエティバルに足を運んでくださり、ありがとうございました。

鮮魚初、ハンバーガーに挑戦し、多くのお客様から『美味しかった』の声を頂きました。私たちが何より嬉しいお言葉です。

天気が良い暑い日が続き、朝との温度差に私はバテ気味、そして4月から娘1人が寮生活になり、寂しさで戦っております。

そんな中…「広告頼むね」「キターー!!」店長の言葉。ほんとに急(怒)。

今の時期? 売りたい?! まぐろの苦手な私、考えます。スタッフ色んな人に目を合わせながら、情報収集。さくらフエティバルで、「鯛めしないん?」と、問い合わせ多かったよ。あつ!! それだ!!

皆さん鮮魚の売り場の天井気がかれましたか?! 桜鯛ののぼり。何度も言いますが(笑)。

脂のり今の時期にしか味わえない桜鯛。秘伝の出汁に桜鯛の骨を焼き上げ、一緒に炊飯する事で、香ばしく仕上がります。

桜は散り始めましたが、是非、鯛めしを召しあがりください。

西田鮮魚店 副店長 越道 裕子

# 『福のない猫に腹巻き毛糸編む』 切なくて優しくして……



鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史

## 言葉の編み物に喜び

山岡 信子 82歳



私は病気のため、デイサービスなどでケアマネジャーさんや介護士さんたちに大変お世話になっている。介護してくれている息子が地元の商業施設の募集している俳句に応募しようと誘ってくれた。テーマは「お正月を詠もう」である。

早速俳句を作ってみたが、なかなかうまくできない。そこで、息子にアドバイスを求めた。「編み物が好きなんだから毛糸を季語に使ったら」と言う。私は息子や友達のためによく編み物をしてきた。今は手が震えてできなくなっているが、その言葉に後押しされた。

編み物といえはかわいがっていた野良猫が思い浮かんだ。「服のない猫に腹巻き毛糸編む」と詠み、もうひとひねりして「福のない猫に腹巻き毛糸編む」と仕上げた。息子が代筆して応募してくれた。

残念ながら選外だったが、とても楽しかった。毛糸の編み物はもうできないかもしれないが、これからは言葉の編み物をしていきたいと思った。(庄原市)



この文章は3月17日に、中国新聞の『広場』に掲載されたものです。

私が会議のためにジョイフルに行くとき、いつもジョイフルの案内所にいる若山さんがA4の茶封筒を届けてくれました。お客様が、私に直接渡してくれと預けていかれたそうです。すぐに開けました。中には当日の中国新聞と一緒にお手紙がありました。この投稿をされた山岡さんの息子さんからのものでした。

〔今年の元旦の広告に『お正月を詠もう』という俳句募集がありました。これはいい機会だと思いに母に俳句を作らせました。テーマは『お正月』。めでたいことを書いて下さいとありました。母には正月のことなら何でもいと伝えましたが、病氣、入院などの言葉は使わないようにと話しました〕

お母さんは、以前ドクターヘリで広島県の立病院に運ばれたこともあるそうです。そして、今は、施設にもお世話になりながら、息子さんが介護されていらっしゃるそうです。介護される方も、する方も大変です。

そんな中で、ジョイフルの『お正月を詠もう』に、お母さんにも投稿してもらうことで元気づけようとしていただいたことが、企画した私たちにとっての何よりの喜びでした。それからのは、とても楽しかったと投稿に書かれているように、息子さんの思惑どおりに事は運びました。いや、それ以上かも。〔それから毎日、正月のめでたい句を考え、応募しました。母は1句、私は12句。〕

2月の最後の土曜日の広告に受賞作品が出ていました。母も私も、私が誘った友人も入選ならず残念。でも大きな広告には、名前と作品が出ていたのでとてもうれしかったです。しかし、このまま終わらせてはいけないと思ひ、中国新聞の

『広場』にジョイフル俳句のことを書いて送りました〕

すると、5日後に中国新聞の『広場』の担当の方から掲載の候補となっているという電話があり、2月17日の朝刊に載ったそうなのです。

〔母に新聞に載っていると伝え、母の作品を私が読みました。母は泣きました。〕

何十年ぶりに、母の友人の方からも電話があり、スマホで話をさせました。

母の投稿を掲載させたのは、天国にいる可愛い猫ちゃんたちだと私は思っています〕

お母さんの投稿から、お母さんの句に出てくる猫は野良猫であり、そして『福のない猫』の『福』は、最初『服』であり『服のない猫』だったということがわかりました。それを知ると、野に捨てられた猫の切なさ、毛糸を手にするお母さんの優しさ温もりを、いつそう感じるようになりました。好きな句になりました。

息子さんも『ジョイフルを詠もう』と題して川柳を送ってくださいました。ジョイフルへの愛、とくに『チロル』のオーナー、清永さんへのメッセージには、それが感じられます。清永さんは私と同じ年。顔に優しさがにじみ出ています。自分が高校生だったころ、細い目をさらに細くして、笑顔で、たこ焼きや大判焼きを焼いてくれたという思い出を、今は40代になられたお客様から聞いたことがあります。秘かな？人気者だったそうです。もちろん、今の中・高生も……。もともと、彼らから見れば、チロルおじいさんかもしれません。紹介してみます。

『ジョイフルへタクシー使わず車いす』

タクシーを使えばお金がかかるので、ジョイフルや日赤病院に行く時には家から車いすで行くことがあります。

『笑顔好きジョイフルながえ素晴らしく』

チロルおじさん、100円ショップおばさんの笑顔が私は大好きです。

『三階のドリームおじさんいつ会える』

私は小学生のころ、今はありませんが三階にあったゲームセンターに、よく遊びに行っていました。テーブルゲームや10円ゲームが楽しかった。当時、三階におられたおじさんのことをドリームおじさんと名付けました。とてもやさしいおじさんでした。

『やさしき目チロルおじさん腰休め』

チロルには母の好きなたこ焼きを買いに行きます。本当にやさしいおじさんです。立ち仕事、お疲れ様です。

『母連れてジョイフルながえ今日も行く』

たまには母に外の空気を吸わせてやりたくてジョイフルに行きます。

笑顔と楽しさ出会う街

ジョイフル・ジョイフル・ジョイフルながえ

5つの句を挙げられ、最後に「理事長さん採点をお願いします(冗談です)」と結んでおられました。

またいつか、近いうちに開催させていただきます。